

～岩手県の新人保健師の1年後の実践は？～

平成28年地域政策研究センター（地域提案型・前期）採択課題

課題名：岩手県新人保健師研修の評価に関する研究

研究代表者：看護学部 講師 岩淵光子

課題提案者：岩手県環境保健研究センター 主査専門研究員 三浦紀恵

研究メンバー：田口美喜子、藤村史穂子（看護学部）、海上長子（岩手県環境保健研究センター）、佐藤雅子（前岩手県保健福祉部健康国保課）

技術キーワード：新人保健師研修会、評価、人材育成、職場内研修

▼研究の概要（背景・目標）

平成23年3月の東日本大震災以降、岩手県内の自治体で保健師の積極的な採用がみられたことから、岩手県は「岩手県新人保健師研修会」を毎年実施している。平成27年度研修(表)の1年後の成果、課題を明らかにすることを目的とした。

▼研究の内容（方法・経過）

1. 調査対象:平成27年度新人研修会を受講した平成27年度採用新人保健師と新人保健師が所属する現任教員担当保健師
2. 調査内容:『記録の書き方』と『面接技法』が業務に活かされているのか、1年後の変化、職場内研修の現状
3. 調査期間:平成28年8月～11月
4. 調査方法:質問紙調査、面接調査

▼研究の成果（結論・考察）

1. 新人保健師は、研修内容の項目はほぼ実践できていたと自己評価していた(図1、図2)。
2. 現任教員担当保健師は、新人保健師が【面接や電話対応が向上した】【簡潔明瞭に記録できるようになった】ことや、【住民や関係機関から連絡が入ようになった】と変化を捉えていた。
3. 職場での現任教員(図3)では、<職場の現任教員教育計画の作成>の実施は全国調査(日本看護協会, 2015)と同様に低かった。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 本研究で得られた成果をモデルとして、新人保健師研修会を進めていきたい。
2. 残された課題の実践の定着に結びつきにくい項目の演習方法の再検討や長期的な評価の検討、職場での現任教員教育計画の作成により新人の目標を可視化し組織の合意を取っていく方策の検討が必要である。
3. 調査実施にあたり、ご協力いただきました岩手県内の新人保健師及び現任教員担当者の皆様に深謝いたします。

表 平成27年度第1回新人保健師研修会開催内容

開催日	平成27年8月24日(月)10時～16時
内容	講義1「記録の書き方」 講師 元杏林大学保健学部看護学科 教授 塚原洋子 氏 演習「グループワーク 記録の振り返り」 講義2「保健活動における面接技法を学ぶ」 講師 元杏林大学保健学部看護学科 教授 塚原洋子 氏 演習「ロールプレイ 面接技法の実際について」

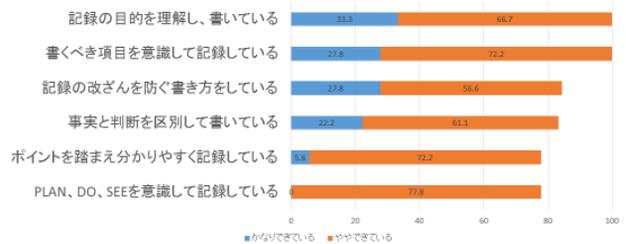


図1 記録の書き方の1年後の状況

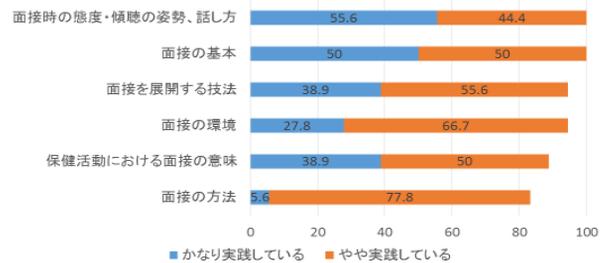


図2 面接技法の1年後の状況

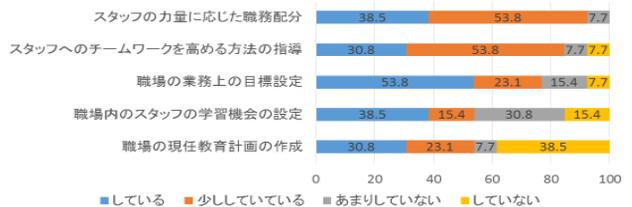


図3 職場での現任教員の実施状況